

スクールカーストが学校教育に与える影響とその課題

小学生から高校生までの 12 年間は生徒たちにとって重要な時間の一部である。そこで、筆者がこれまで学校生活を送る上で疑問を抱いていたのは生徒たちによる教室内で顕在的に存在している序列関係である。この序列関係をスクールカーストと呼ぶ。学校生活において教室内には必ずリーダーのような発言力があり皆を導く力を持った人物が少なくとも 1 人はいた。このような大きな力を持った人々をスクールカーストの上位者と位置付けられ生徒同士の序列関係があることで学校生活に影響を及ぼすと推測する。教室のような狭い空間でどのような要因で序列関係が起こりうるのか、学校はどういった対策・取り組みが必要であるか考察する。

スクールカーストとは、クラス内で形成される階層的に作られた序列関係を指す。日本人は諸外国と比較して自己肯定感が低い。そのため、同調圧力が働き高地位グループや低地位グループに関わらず権力のある人には無理に逆らわないという葛藤を持ちながらも学校生活を送る生徒もいると考える。

北海道旭川市の中学校に通う当時 14 歳の A さんがいじめに遭い亡くなった。上級生からの SNS や性的な嫌がらせによるいじめが起こった。本事件は先輩・後輩の上下関係や仲の良いグループにおける人間関係が深く関わったものである。その中で優秀さや権力の有無によるスクールカーストが顕著に表れ、物事を冷静に判断する力や頼み事の断る・断らないといった判断力もいじめに発展した背景にあると考える。

小学校時はクラス内で他の生徒と逸脱した行動や言動を発することで、「あの子は少し変だ」「変わった子」といった善し悪し関係なく周囲と違った見方で捉えられる。また、「スクールカースト」という認識は見られず特定のクラスメイトがいじめに遭っており、いじめられている生徒は「地位」が低いという理由があったと考える。

中高生時では特定の個人ではなくグループとなって互い意識し始めるようになる。しかし、クラス内にいつも 1 人で過ごす生徒がいることもある。そういう生徒は特に目立ち浮きやすい。グループに所属しない生徒は上下位のグループから、さらに下位の地位として弱い存在とみなされる。

恣意的に形成されるスクールカーストがあることで人間関係に亀裂が生じていじめの要因になる。日本人は自己肯定感や自尊心が諸外国と比較して低い。そのため、学校において授業や行事等でそれらを高める取り組みが必要である。いじめが起きないためにも学校の取り組みは重要である。発覚・疑いがある場合には教員 1 人で抱え込まず学校組織で対応すべきである。